

鳥羽市地域公共交通会議会議録

会議の名称	令和元年度第1回鳥羽市地域公共交通会議バス幹事会
開催日時	令和元年6月24日(月) 10:00~11:30
開催場所	鳥羽市民文化会館 3階 中会議室
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. あいさつ 2. 自己紹介 3. 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度鳥羽市地域公共交通会議決算について【資料1】 (2) 令和元年度鳥羽市地域公共交通会議予算(案)について【資料2】 (3) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について【資料3】 4. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について【資料4】 (2) 平成30年度かもめバス利用状況統計について【資料5】 5. その他
会議資料	事項書・席次表・委員名簿 【資料1】 平成30年度鳥羽市地域公共交通会議決算 【資料2】 令和元年度鳥羽市地域公共交通会議予算(案) 【資料3】 地域内フィーダー系統確保維持計画(案) 【資料4】 地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果 【資料5】 平成30年度かもめバス利用状況統計 冊子「活発で良い議論ができる会議のために」
公開・非公開の別	公
傍聴人の数	1人(三重交通1名)
出席委員	立花会長、加藤委員、鈴木委員、天野委員代理 岸江氏、中村委員、今井委員、三村委員、中垣内委員代理 村上氏、松林委員、角屋委員、山下委員、小寺委員、岩本委員代理 武中氏、西本委員代理 達氏
オブザーバー	なし
欠席委員	小崎委員、宮崎委員
事務局	定期船課 世古、野呂、寺本
<p>1. あいさつ</p> <p>○世古事務局長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会 ・配布資料の確認 <p>○立花会長挨拶</p> <p>昨年度は計画推進事業の一環として、企画切符を発売するなど様々な事業に取り組んだ。今年度も地域公共交通網形成計画に掲げる目標の達成に向け、委員の皆様と連携し、前向きに取り組んでいきたいので、ご協力いただきたい。本日の会議は、中部運輸局に提出する令和2年度認定申請を中心にご討議いただきたいので、忌憚のない意見をお願いしたい。</p> <p>2. バス幹事会委員自己紹介</p> <p>出欠報告と出席者全員による自己紹介を行った。</p> <p>議事に入る前に、「活発で良い議論ができる会議のために」という冊子について、三重運輸支局 鈴木委員より説明を行った。地域公共交通会議での議論が、活発でより実のあるものとなるように参加者の役割をP.3~4に示している。P.6には、それぞれの公共交通が果たす役割を踏まえ、地域に合ったより良い公共交通が実現するよう議論していくことが重要であるなどのポイントを記載している。</p>	

3. 協議事項

(1) 平成30年度鳥羽市地域公共交通会議決算について

○寺本事務局員

資料1について説明。懇談会の開催、企画切符作成などの支出に対し、国と市から補助を受けた。
・監事 天野委員代理 岸江氏より監査報告があり、出納は適正であると認められた。

(2) 令和元年度鳥羽市地域公共交通会議予算(案)について

○寺本事務局員

資料2について説明。懇談会の開催、パンフレットスタンド購入などの支出に対し、市から補助を受ける予定であるが、今年度は国からの補助がないため、事業費は減額となった。

○今井委員

パンフレットスタンドの予算は計上しているが、パンフレットの作成費用はどこから支出しますか。

○寺本事務局員

公共交通会議予算として、市の方で印刷用の用紙購入予算があるので、自分達の手作りで印刷する。

○加藤委員

予算を示す前に、まず事業計画を見ないと議論できない。パンフレットスタンドを購入するにしても、どんなパンフレットを作るのか、それは地域公共交通網形成計画のどの部分を進めているのかについて、まず説明がある。後で30年度の二次評価結果や利用状況の報告があるようだが、記念切符の作成などについて、30年度はどのような効果があって、元年度はこうしていくという説明をまずしないといけない。

○野呂事務局員

鳥羽高校の「とばっこくらぶ」と協力して、新しいバス旅行企画を作成している。パンフレットスタンドは、マガジンラックの上部にインフォメーションを掲示できるホワイトボードが付属しているようなものを想定している。十勝バスのようなイメージで、これから色々と企画を作っていきたいと考えている。また、かもめバス周遊用のPRポスターを作り、バスで通るルートを色づけして示し、鳥羽バスセンターに掲示している。3月に限定周遊券を販売した際に、周遊プランをアピールする狙いがあった。

○加藤委員

そのポスターにはバス停が描いてありますか。

○野呂事務局員

バス停は描かれていません。

○加藤委員

バスの説明をするなら、バス停が描いてないといけない。

○立花会長

書き込むことはできないか。

○野呂事務局員

手描きすることぐらいならできると思う。

○加藤委員

伊勢市の広報では、全イベントに最寄りバス停を付記している。それぐらい徹底しないといけない。

○今井委員

バス停を印刷で入れるのは大変だと思うので、丸いシールにバス停を描いて貼るのもいいのでは。

○世古事務局員

貴重な意見をいただいたので、今後パンフレットなどを作成する際には、そういったことに気をつけていきたいと思うので、ご理解いただきたい。

○立花会長

ポスターを貼ってあるのが2か所ぐらいなら、シールなどでも対応できるかと思う。

○今井委員

ポイントとなるバス停だけでも貼るといい。

○加藤委員

ポストイットの強めに貼れるものなどでも対応できる。

○立花会長

そういった対応を考えさせてもらいます。

○今井委員

パンフレットスタンドは、1つ置くだけですか。

○寺本事務局員

バスセンターに1つ置く予定です。

○中村委員

パンフレット自体は、まだできていないのですね。中身を今から協議して、パンフレットができてからパンフレットスタンドを設置するということですね。

○寺本事務局員

作ったコースを実際にバスで回れるかをフィールドワークなどで検証してから、作成することになる。学校のテスト期間終了後、7月ぐらいからフィールドワークに入ると聞いている。

○中村委員

企画商品としては、具体的なものができつつありますか。

○寺本事務局員

企画商品というか、作ったマップにそって色々回ってもらいと面白いということをどれだけアピールできるかが主になる。どんな特典をつけるかなどについては、また色々ご相談させていただきたい。

○中村委員

過去にこういった企画をやった実績はありますか。

○寺本事務局員

高校生のこういった企画は初めてです。それ以外だと、3月限定周遊券を今回販売している。

○中村委員

そういう実績を参考にしながら、今回の企画をやっていくということですね。

○加藤委員

今、鳥羽市観光協会のフェイスブックを見ているが、「いいね！」をしている人が2,158人もいる。実際にコースを検証しに行くという話が出たが、単に調査に行き終わりにするのではなく、検証している過程で発見したものを、これから作るパンフレットの予告という形で、フェイスブックを使ってPRすれば、調査に行く意味も出てくる。今は、こういうツールを使った発信が大事なので、最初から予告を作るつもりで行くといい。高校生も一緒に行くなら、ますますいい効果になると思う。

○立花会長

色々助言いただいたことを取り入れ、いいものを作っていきたい。

(3) 地域内フィーダー系統確保維持計画(案)について

○寺本事務局員

資料3について説明。今年度は地域公共交通網形成計画に定める目標を達成するための事業として、「公共交通を利用した高校生発想の旅行企画」の作成、バスの乗り方教室などを実施していく。また昨年度は、「安楽島苑団地前」バス停の新設や企画切符の作成などを行ったが、今年度はさらなる地域との協力をテーマに、公共交通の利用増加を目指して事業を行っていく。

○加藤委員

資料4の二次評価結果を踏まえているか、資料5の利用状況で減少しているところをどうしていくかを計画に反映しているかが大事なので、まずそれらの説明が必要。きちんと状況を把握して分析し、それから計画をどうしていくかということになるので、一般的な会議の順序ではこの会議は成り立たない。

○立花会長

では、報告事項の説明を先に事務局からさせていただきます。

4. 報告事項

(1) 平成30年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果について

○野呂事務局員

資料4について説明。運転免許証自主返納者支援制度、鳥羽警察署前へのバス停設置、地域の高校生と連携した観光企画の作成等について評価をいただいた。今年は、バスの乗り方教室の実施、高齢者に見やすいバス時刻表の作成等を行っていく。

(2) 平成30年度かもめバス利用状況統計について

○寺本事務局員

資料5について説明。悪天候や酷暑の影響等もあり、乗車人員、収入ともに減少した。特に小浜～鳥羽小学校線が大幅に減少した。国崎線などについても、レンタカーの利用増加にともない、減少傾向にある。乗車券別利用枚数は、ほぼ前年度より実績が増加した。周遊券の実績は減少したものの、3月限定周遊券の販売効果もあり、3月の実績は前年を大幅に上回った。

○今井委員

小浜～鳥羽小学校線で、鳥羽小学校で降りる人が減っているということだが、それはつまり卒業した人より入学する人が減って、学校全体の在籍人数が減ったのが要因として考えられるということですか。

○寺本事務局員

通学にバスを利用する人が減ったということです。

○今井委員

一方で、同じ路線で8月は前年比115%という数字になっているのはなぜですか。この路線で行く所というのが思いあたりませんが。

○立花会長

ただ、8月は分母自体が小さいということもある。

○加藤委員

今井さんの指摘は重要で、8月は小学生の利用がほとんどないので、一般の利用が増えている可能性がある。その要因を検証しなければならない。そもそも鳥羽小学校で降りる人が、日々5人ずつぐらい減っているというのが、単に小学校の在籍人数が減ったからというだけならいいが、家族が送迎するようになったなどの理由があるなら、考えるべき部分がある。また、理由もなく増えたというのはいけないので、何か理由があるならそこをもっとPRして伸ばしていくのが大事。もともと私としては、小浜の路線をもっと観光化できないかと思っている。石神さんにしても、昔は同じ状況だったと思うので、小浜にも何かあるかもしれないし、もしかするとその何かを見つけた人が行っているのかもしれない。それを見つけて徹底してPRしていくことをやっていかないといけない。

○野呂事務局員

何かの目的で行っている可能性があるので、また乗降実績を分析してみます。

○中村委員

鳥羽～国崎線も前年度と比較すると、利用者が約6,000人減っている。石神さんを訪れる方は21万人ぐらいで、昨年度とほぼ変わっていないので、純粋にバスの利用者が6,000人減ったことになる。確かにレンタカーの影響は多分にあると思うが、それ以外にも何か要因はありますか。

○寺本事務局員

観光バスのツアーなども影響していると思う。

○野呂事務局員

レンタカー事業者によると、中型車の6時間パックで6,000円というプランを展開しているとのこと、ちょうどタクシー片道分ぐらいの値段になる。客層は女性の3～4人グループが非常に多いとのことだった。石神さんは女性に人気のスポットなので、観光バスツアーやレンタカーを利用する女性が多くなると、バスへの影響も大きくなる。今はどこの自治体でもレンタカーが脅威となっているので、なるべくレンタカーに流れていかないよう、バスを利用したら特典があるといった企画を考えていきたい。

○中村委員

高校生の旅行企画のPRは、どういう形でやりますか。

○野呂事務局員

ホームページ等でのPRはもちろんのこと、3月限定周遊券リーフレットを、三重交通さんの営業所を通じて津より北の北勢エリアに配布してもらって予想以上の効果があったので、そのあたりや中京圏を中心に展開していきたいと思っている。やはりバスに乗ってもらおうと思うと、まず電車に来てもらうことが前提となる。離島航路の方は、関西方面で人気があるので、関西を中心に現在展開している。

○中村委員

せっかくの機会なので、たくさんの人に利用してもらいたい。

○今井委員

切り口はすごくいいと思う。

○立花会長

なるべく色々なところにリンクしてもらうなど、工夫するといひ。

○中村委員

関連するところがあれば、いつでもホームページ上でリンクさせてもらう。

○野呂事務局員

地域の皆さんと連携しながら、展開していきたい。待っているだけでは、お客さんがどんどん減ってしまうので、ご協力をお願いします。

○加藤委員

まず鳥羽駅まで鉄道で来てもらうのが第一となる。鳥羽へ来たら、鳥羽の色々な楽しそうな所へ行けるということ、とにかくPRすることが必要。そう考えた時に、今、ネットを見る限りでは不十分かと思う。石神さんで検索すると、じゃらんなどでは、ほとんどかもめバスの案内がされているので、これは良いと思うが、近鉄のホームページを見ると、鳥羽では石神さんの情報しか掲載されていない。そこにかもめバスのリンクが貼ってあるが、リンク切れしていて、かもめバスまでたどり着けない。こういうことこそ観光協会などで、鉄道・バスで巡る鳥羽の旅のような形できちんとアピールしてもらえばよいと思う。

それと関連して、ラックを鳥羽バスセンターに置くのがよいのかどうかということを考えないといけない。近鉄の駅にはそう簡単には置けないと思うが、観光案内所が駅にある。観光案内所の大量のパンフレットがある中に置いて埋没するだけなので、特におすすめのを数点だけ置いてもらって、バスセンターにはもっと色々置いてあるので、バスセンターに行って、今日の旅のプランを考えませんかという形にするのもいい。もちろんパンフレットは全てpdfにして、ホームページで見られるようにすることも必要。そういう風に、駅からも何か対策していかないといけない。ゆっくりパンフレットなどを見てもらえる場所として、バスセンターにバス旅案内所やバス旅ステーションのようなニックネームを付けて展開していくのもいい。もちろん、マリターミナルにも来てもらわないといけないが、バスセンターでも、マリターミナルから船で行くものもPRしていくんですよ。

○寺本事務局員

バスプランができれば、次は定期船プランを予定している。

○加藤委員

鳥羽の難しいところであり、逆に良いところでもあるのは、マリターミナルとバスセンターと駅でそれぞれ何を出すかを考えていかないといけないところ。それぞれの場所で他の所にも面白いものがありますよということをお知らせするのが大事で、合間に色々な店にも行ってくださいねという風にしていくのがいい。その辺は、懇談会できちんと議論しないといけないことかもしれない。そういうことを地域内リーダー系統確保維持計画には書いていかないといけないが、あまり書かれていない。

○立花会長

もう少し計画内容を充実させることはできますか。

○寺本事務局員

できます。

○加藤委員

早めに今後のことをきちんと考えてやっていると、せっかくのいいシーズンが終わってしまっは、もったいない。少なくとも、近鉄にはリンクの件を連絡してください。

○寺本事務局員

至急連絡します。

○野呂事務局員

観光案内所とは連絡を密に取るようにしているが、最近の傾向として2~3人のグループがノープランで来るケースが増えているとのこと。そういう方達にバスに乗ってもらうには、どういう動線を作るといいのかということを考えているところ。

○加藤委員

ノープランだからこそ、レンタカーとなってしまう。レンタカーだと何にでも対応できる。東京などに比べれば不便かもしれないが、ノープランでも、鳥羽のバスもそこまで不便ではないし、気兼ねなく旅行できますよということをお知らせできればいい。レンタカーが増えてきたとなると、石神さん周辺の駐車場はどういう状況ですか。

○中村委員

駐車場は確保されているので、特に問題はない。

○加藤委員

あまりに車が増えすぎて困るとなってきたら、もっと強い対策が必要かもしれない。鳥羽はもともと遠いということもあって、そう便利じゃないんだろうなという感覚で来られる可能性はある。都会と比べたらいけないが、かもめバスはそこまで不便じゃないので、きちんとPRしていくことが重要。やはり情報の出し方が大事である。

○山下委員

離島の住民からすると、鳥羽へ来るまでに時間がかかり、またバスを待つ時間がかかるので、すごく不便に感じる。今までだとついタクシーを使ってしまっていたが、タクシーももうないので困っている。

○加藤委員

ある程度、乗継は配慮していますよね。ただ、ダイヤの変更に伴って、だんだん変わっていく部分もあるので、もう一度確認はした方がいい。

○今井委員

最近、豪華客船が入ってくる回数が増えている。船を降りたお客さんが、市内をけっこう観光しているという話を聞く。そうであれば、パンフレットを持って、案内に行くのも一つの手かと思う。

○野呂事務局員

今年度に入ってから、何回か大型客船が入港した。マリンターミナルで降りたすぐのところにブースを設けて観光PRをしている。観光バスに乗ってまず伊勢神宮へ行き、ミキモト真珠島を見学して、だいたい昼過ぎに戻ってきて、そのまま帰るというパターンが多いようである。市内を散策される方もいるので、観光協会の方とブースでバスのプランなども告知していけるといいという話をしている。

○今井委員

伊勢神宮に行く人が多いというのはよく分かる。真珠島は外国人にとっては人気があるので、そこをもう少しだけ足を延ばして石神さんまで引張れるといい。船にはどこの国の人が多いのか分からないが、英語や中国語などのパンフレットがあれば、行ってみようかという気になってくれるかもしれない。口コミやSNSの効果も絶大だと思うので、そういうことをやってみると面白いかもしれない。

○野呂事務局員

まだ腹案であるが、石神さんや国崎方面、海の博物館なども外国人にとっては珍しいと思うので、出港となる夕方までのちょっとした時間で、何とか外国人向けのプランニングができないか考えている。

○立花会長

飛鳥Ⅱだとだいたい500人ぐらいだが、ダイヤモンドプリンセスは2,500人ぐらいの方が降りてこられる。観光バスで伊勢神宮などに行くのはオプションツアーで、全てダイヤモンドプリンセス側が仕切っている。船によって、市内を散策される方の割合も変わってくるが、昨年度に来た時はオプションツアーより、市内散策の方が多かった。船を降りてから、Wi-Fiを使って各自情報収集される。

今年度からは大型客船の協議会を志摩市や伊勢市と作っており、自分で動きたい人達向けに、ブースを設けて各市町の観光部局の職員が案内をしている。ただ、船での食事が3食用意されているので、朝出てきても、お昼また船へ食事に戻る方がけっこういる。引き留めるにはこちらもかなり魅力的なものを用意しないといけない。昨年度は2回だったが、今年度は8回来るので、少しずつ方策を考えていきたいが、あまり作り込みすぎると逆に嫌がられることもある。お客さんの反応や、他ではどういうことをやっていて評判はどうかなどを聞き取りしながら、オプションツアーとは別の個人行動ができる半日ツアーを、協議会全体で考えている。これに高校生のプランなども絡めていけたらいいなと思う。

○今井委員

自分が船旅をするならどうするか考えた時に、オプションツアーなどはさらに料金もかかるだろうから行かないと思うが、もし個人で選べる地域のツアーみたいなものがあって、なおかつ地元のレストランでのミール券付きなら、それも面白いかなと思う。

○立花会長

ダイヤモンドプリンセスは規模が大きいので、参加人数で割るとオプションツアーもそこまで高くない。個人行動をする人達も色々なので、ミール券を付けるより、行先を情報提供する方がいい。

○山下委員

島の旅社を通じて、離島にも外国人がかなり増えている。

○今井委員

そうすると、情報をいかにたくさん提供するかが大事ということですね。

○立花会長

ミニオブショナルツアーのようなものを作るところまでやりすぎると、嫌がられるかと思う。その時々で、来られる外国人の割合も変わってくる。国によって、何を好むかも変わってくる。

○今井委員

でも、やはりそういう方々をターゲットとして考えていくといいですね。

○立花会長

気を配る部分としては、朝から夕方までの間でどう動いてもらうかということになる。

○加藤委員

作り込みは、インバウンドには通用しない。自分で目的地とそこに行くための交通手段を探すのがこれからのFIT(個人旅行)の流れとなる。1回目はオプションツアーなどを楽しむ人もいるが、2回目以降は通用しない。できれば鳥羽のリピーターになってもらいたいが、インバウンドでの一番の弱点はgoogle検索ができないこと。国内なら、答志～石神さんという検索にも対応しているが、英語に全く対応できていない。英語版の時刻表があるなら、それをgoogle検索できるようにしておくといい。検索ができないと離島に行ってもらえないだけでなく、離島に行く手段がなかったことをネットなどで拡散されてしまう。鳥羽のような観光地は、ここをきちんとやっておいた方がいい。

伊勢神宮より南は、インバウンドが少ないところと言われている。日本語でしか発信していなかったら全く知られないし、発信していても外国人の目に留まらなければ発信したことにならない。鳥羽は定期航路もかもめバスも市がやっているので、鳥羽市単独で発信をやっているとしても非常に厳しい。そういう時に、googleに対応できていれば、たくさん検索に上がってきて大逆転できる。ここはお金を使ってやっていってもいいところだと思う。

○立花会長

ダイヤモンドプリンセスが鳥羽に入ってくる時に、島影を見ながら入ってくるロケーションが非常にいいということを聞いている。島に目をやると町に人がいるのが見えて、行ってみたいとなる。大量に来られても島の方達が困ってしまうが、行ける手段を作っておくことは大事だと思う。

○山下委員

答志にいる地域協力隊の方の任期がもうすぐ切れるので、他の事業者と競合しない程度にだが、外国人を中心にした案内をやってみようかという話も聞いている。

○立花会長

昨年、ダイヤモンドプリンセスが来た時は、離島に行った方が1人もいなかった。これはもったいないと思ったので、離島の方々の理解を得て、気を配りながらやっていきたいと思う。それでは、地域内フィーダー系統確保維持計画に、盛り込める部分を加えて修正し、提出させていただくということでしょうか。ご賛同いただける方は挙手をお願いします。(全員の挙手あり)

○加藤委員

ところで、1月の自己評価の時の補助金年度実績と、今日説明があった30年度利用者実績を見てみると、やはり全体的に悪化している傾向にある。乗継割引券の利用は非常に多くなっているの、離島の方にはけっこう使ってもらえている。

○山下委員

もっと広報とばを通じてPRをしてほしい。もし運転免許を返納した時に、どうしたらいいかわからないので、もう少しPRが足りないかと思う。

○加藤委員

乗継割引券は、目標6,000人、自己評価7,400人、年度実績8,800人となっているが、さっきの話のように、乗継がいまいち不便だという意見もあるので、そこをもっときちんと見直せば10,000人も望めるのではないかと。地域公共交通網形成計画では目標を6,000人としているのと思うが、上方修正していくこともありえるかと思う。利用者数は、目標250,000人、自己評価223,000人だが、年度実績は217,000人まで落ち込んでいるので、どの路線がどう影響しているのかを精査しないといけない。自己評価の時の補助金年度実績と、実際の年度実績を比較し、次年度の対応策についてきちんと書いていくこと。

○立花会長

そのように対応させていただきます。

5. その他

○加藤委員

3 月末の公共交通の利用促進について考える懇談会で紹介した国土交通省の新モビリティサービス事業について、鳥羽市はやらないということだったが、志摩市と菰野町がやることになった。全国 51 ヶ所から申請があり、19 ヶ所が採択された。明日、県知事の記者会見で紹介されるほど、大きな事業である。

伊勢・志摩・鳥羽地域のポテンシャルに比べて、インバウンドがあまりにも少ないことが問題である。高山などはたくさん外国人が来ているのに、どうしてこちらに来ないのかを考えた時に、近鉄さんが自分達の情報の出し方が不十分なところがあると考えていることを踏まえ、まず志摩でやっということになった。当然、これは鳥羽や伊勢にも展開していかないといけないことなので、そういうことを念頭に置いてほしい。名古屋から電車で来る方や、セントレアから船で津へ来る方を主に、日本人はもちろん、外国人の方にもどんどん伊勢志摩地域に来てもらって、この地域の良さを分かってもらう。伊勢志摩は日本語なら「まわりゃんせ」などがけっこう充実しているのに、全くネットに載っておらず、英語できちんとアピールできていない。それをやっというのがこの事業となる。まずは志摩から始めるが、いいものができてきたらすぐに参加できるように考えてもらおうと、この地域が一体となって移動していくことができるようになる。今日、議論した問題と直結することです。

○立花会長

ありがとうございます。

6. 閉会

○立花会長

令和元年度第 1 回鳥羽市地域公共交通会議バス幹事会の議事については全て終了しました。今後開催させていただくバス幹事会について、再度出席をお願いし会議を終了させていただきます。